

'03 茨城大学

解説

[A] (1) P点での屈折の法則より

$$1 \cdot \sin \theta_0 = n \cdot \sin \theta_1$$

$$\text{ゆえに } \sin \theta_1 = \frac{1}{n} \sin \theta_0$$

(2) 右図で $\theta_1 + \theta_2 + \angle S = 180^\circ$

$\angle APS = \angle AQS = 90^\circ$ だから

$$\alpha + \angle S = 180^\circ$$

よって $\theta_1 + \theta_2 + 180^\circ - \alpha = 180^\circ$

$$\text{ゆえに } \theta_2 = \alpha - \theta_1$$

(3) Q点での屈折の法則より

$$n \cdot \sin \theta_2 = 1 \cdot \sin \theta_3$$

ここで $\sin \theta_2 = \sin(\alpha - \theta_1)$

$$= \sin \alpha \cos \theta_1 - \cos \alpha \sin \theta_1$$

また $\cos \theta_1 = \sqrt{1 - \sin^2 \theta_1}$

さらに $\sin \theta_1 = \frac{1}{n} \sin \theta_0$

以上から

$$\sin \theta_3 = n \cdot \sin \theta_2$$

$$= n \cdot \sin \alpha \cdot \sqrt{1 - \sin^2 \theta_1} - n \cdot \sin \theta_1 \cos \alpha$$

$$= n \cdot \sin \alpha \cdot \sqrt{1 - \frac{\sin^2 \theta_0}{n^2}} - \sin \theta_0 \cos \alpha$$

$$= \sin \alpha \sqrt{n^2 - \sin^2 \theta_0} - \sin \theta_0 \cos \alpha$$

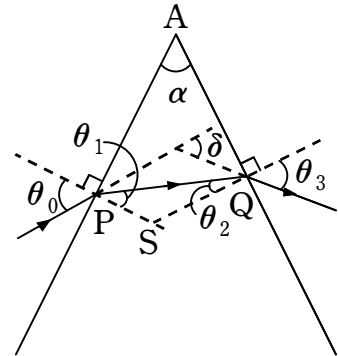
(4) $\alpha + \angle S = 180^\circ$

また、四角形の内角の和は 360° だから

$$\theta_0 + \angle S + \theta_3 + (180^\circ - \delta) = 360^\circ$$

$$\theta_0 + (180^\circ - \alpha) + \theta_3 + 180^\circ - \delta = 360^\circ$$

$$\text{ゆえに } \delta = \theta_0 + \theta_3 - \alpha$$



'03 茨城大学

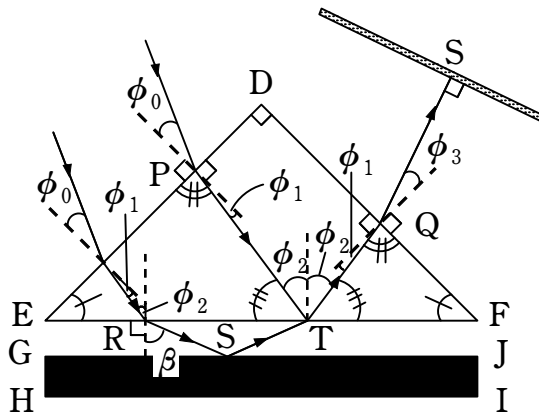
(5) (3) の $\sin \theta_3$ の式に, $\alpha = 60^\circ$, $\theta_0 = 90^\circ$, $\theta_3 = 30^\circ$ を代入して整理する。

$$\sin 30^\circ = \sin 60^\circ \sqrt{n^2 - \sin^2 90^\circ} - \sin 90^\circ \cos 60^\circ$$

$$\frac{1}{2} = \frac{\sqrt{3}}{2} \sqrt{n^2 - 1} - \frac{1}{2}$$

$$\frac{\sqrt{3}}{2} \sqrt{n^2 - 1} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad n^2 = \frac{7}{3}$$

[B] (6) 下図の P 点での屈折角は ϕ_1 である。また, Q 点での入射角も ϕ_1 である。



P $1 \cdot \sin \phi_0 = n \cdot \sin \phi_1$

Q $n \cdot \sin \phi_1 = 1 \cdot \sin \phi_3$

よって $\phi_3 = \phi_0$

(7) R 点での屈折の関係より

$$n \cdot \sin \phi_2 = 1 \cdot \sin \beta$$

また, (2) と同様に考えて $\phi_1 + \phi_2 = \angle E = 45^\circ$

よって, (3) と同様に計算をすると

$$\begin{aligned} \sin \beta &= n \cdot \sin \phi_2 = n \sin (45^\circ - \phi_1) \\ &= n \sin 45^\circ \cos \phi_1 - n \cos 45^\circ \sin \phi_1 \\ &= n \cdot \sin 45^\circ \sqrt{1 - \sin^2 \phi_1} - n \sin \phi_1 \cos 45^\circ \\ &= \sin 45^\circ \sqrt{n^2 - \sin^2 \phi_0} - \sin \phi_0 \cos 45^\circ \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}} (\sqrt{n^2 - \sin^2 \phi_0} - \sin \phi_0) \end{aligned}$$

(8) プリズムの EF 面で反射する光と, プリズムの EF 面から出て直方体の GJ 面で反射してプリズムに入射する光との干渉は, 薄膜の干渉と同じように考えることができる。下図の RST の経路を通る光と T で反射する光の経路の差は UV である。

'03 茨城大学

したがって、最も暗くなったときの EF 面と GJ 面の距離を d とすると、GJ 面での反射で位相が反転するから、暗くなるときの条件式は

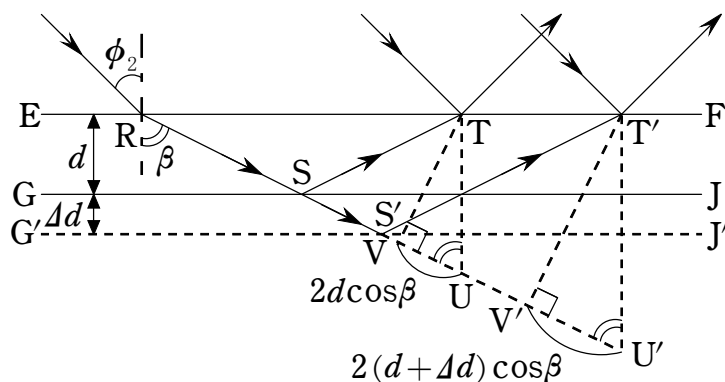
$$2d\cos\beta = \frac{\lambda}{2} \times 2m \quad (m=0, 1, 2, \dots) \quad \text{..... ①}$$

直方体が Δd だけ移動したときの条件式は

$$2(d + \Delta d)\cos\beta = \frac{\lambda}{2} \times 2(m + 1) \quad \text{..... ②}$$

② - ① より

$$2\Delta d\cos\beta = \frac{\lambda}{2} \times 2 \quad \text{よって} \quad \Delta d = \frac{\lambda}{2\cos\beta}$$



講評

プリズムを利用した、光の屈折の問題。問題自体は基礎的だが、計算が面倒な部分があるのと、数学的な知識を使う部分が多いのが多少気になる問題。実際の問題では、加法定理の式が与えられている。きちんと計算できる力を養っておきたい。